

夢と誠

株式会社マコトフードサービス

まこと屋の考え方（あり方は考え方で決まる）

平成 27 年 11 月 18 日

代表取締役 笠井政志

はじめに

この冊子は、創業者である笠井政志が生きてきた中で、仕事をしてきた中で、どういうふうに考え、行動してきたのかをまとめたものです。

もちろん、私だけの考え方ではなく、本で学んだもの、成功している先輩から直接学んだものも多くあります。

ただ、ここにまとめたものは、私の中で完全に血となり骨となり自分の考え方として人生に大きな影響を与えているものばかりです。

まこと屋で働くみんなにはこの考え方を自分のものにしてください。

なぜなら、これは私だけの考え方ではなく、成功したい人、幸せになりたい人すべての人間に教訓となる普遍のものだからです。

1条 迷ったら、しんどい方を選べ

人生、仕事で迷った時は、しんどい道、困難な道を選んだ方が将来の自分の成長につながる。

2条 自分に矛先を向ける

上手くいかないときに、その原因を人のせい、環境のせいにする人間は決して成功しない。

3条 時を告げる人になるのではなく、時計を作る人になる

ある素晴らしい能力をもったリーダーがいる。このリーダーは何も見ず、何も聞かず今が何時何分何秒を言い当てることができる。でも、そのリーダーがこの世からいなくなれば誰も時間がわからなくなってしまう。真のリーダーとは、時計を作りあげ、すべての人間が 100 年以上もの間、今の時間を知ることができる仕組みを作れる人間である。

4条 若い間は変化球を覚えるより、ストレートを磨くべき

店長業を小手先でこなしてもいつか化けの皮は剥がれる。若いうちは直球勝負でスタッフたちと正面からぶつかるべき。

それが本物の能力を磨く方法である。

5条 一つ一つの行動を意識する

事上磨錬 実際の行動の中で知識を磨き、人格を磨く考え方。毎日の歯磨き、歩き方、麵の湯切り、ライスの盛り付け、報告書の文字など。何気ない行動の一つ一つに意識をもって取り組めばいつかそれは大きな力になり、大きな差となる。

6条 失敗は挑戦した数

失敗したことが無い人間は挑戦したことも無いということ。失敗を誇れ、挑戦した数を誇れ。

7条 過去は変ることができる

人は過去は変えれないと言う。でも、同じ環境で育って成功した人間はあの過去が自分の糧になったと言う。失敗している人間は過去にあんなことがあったからと言う。今までの努力と今の結果次第で過去は意味のあるものに変えることができる。

8条 我儘な人間が傲慢ではない。本当に傲慢な人間というのは努力をしない人間である謙虚な人間ほど自分の能力は足りないと思ひ努力する

9条 最良の敵は良である。

悪は誰でもわかる。でも、本当に難しいのはたくさんの良に最良が埋もれてしまうことだ。

10条 人生はメトロノーム

メトロノームは右に左に同じように振れる。人生も辛い事、苦しい事と幸せのほうに均等に振れる。本当に幸せになりたいなら苦しいほうに針が振れることを覚悟すること。そして、大きい幸せを手に入れたいなら、大きく苦しみの方に振れることを覚悟すること。

11条 カローラに乗りたい人間とフェラーリに乗りたい人間の努力は違う。

カローラの努力でフェラーリを手に入れることは不可能である。

12条 教育は流水に文字を書くような果てない業である。だが、それを巖壁に刻むような真剣さで取り組まねばならぬ。

教えても教えても、覚えない、最後は辞めていく。心も折れそうになる。

でも、この教育という仕事は岸壁に文字を刻めば 100 年も残る仕事である。自分が育てたスタッフが将来会社を変え、社会を変える人間になるかもしれない。

13条 最初から 100 回言うつもりで教育する

1 回でできるようになる、わかるようになると思うから心が折れる。最初から 100 分の 1 回目と思うこと。

14条 まあええか病

一つのまあええかは 2 つ、3 つのまあええかをつくり、その人間の人生はまあええか病にかかった妥協の人生になる。

15条 診断してから、処方する

先に相手を理解してから、判断し行動する。その為には理解するために聞くという能力を持つ人間は成功する大きな要素である。

16条 有限実行

自分を早く認めさせたければ有限実行である。石を投げる前にあそこを狙うと言って当てるのか、当たった後に実は狙っていたというのでは周りの受け止め方は天と

地との差がある。

17条 人生は縦軸でバランスをとる

若いうちは仕事も、家族も、友達も、趣味もというように横にバランスをとっていれば大きな成功できない。1日は24時間しかないのだから。大きく成功したければ、若いうちは仕事に集中し、結果を出していく中で、数年後に家族、友達、趣味の時間をつくる方が人生70年、80年ではバランスがとれた人生になる。

18条 悲観的に考え、楽観的に行動する

準備の段階では最悪の状況や細かい点まで臆病なぐらいイメージし準備する。ただ、やる段階になれば迷わず楽観的に最高のイメージをもち行動する。

19条 あるべき姿を見て接する

スタッフをアルバイトと思って接すればアルバイトになる。将来のスタッフリーダー、将来の店長と思って接すれば相手はそう変わっていく。

子供も同じ、子供と思って接すれば子供。一人の人間と思って接すれば自分の意思をはっきり言える一人の人間にと成長していく。

20条 孤独と孤高

孤独は横に孤立すること。孤高は一人高い目標、基準を持ちそこにみんなを引っ張っていく人間がいる場所。

21条 裁くより、光を与える人間になる

人の失敗を裁く人間より、人の模範となり希望を与える人間になる

22条 一段上の正義

子供がおもちゃが欲しいと駄々をこねる。でも、本当に子供を思うならそこでおもちゃを買い与えることが正しいことじゃない。その場では厳しいと思うことも、一段上から考えれば正義となる

23条 ORではなく、ANDで考える

利益か（OR）顧客満足ではない、利益と（AND）顧客満足である。優しさか（OR）厳しさではない、優しさと（AND）厳しさである。仕事も人生も相反するものをどう考え、判断し、行動していくのかで成功は決まる。

24条 疑った目で見ると発見できる

刑事の仕事はすべてを疑うことから始まる。疑うから細かい点にも気づく。ただ、こういう生き方はしんどい、。でも、誰かがやらなければいけない。成功する人間はこのしんどい生き方をしている人間である。

25条 どこと比べるか？

人と比較するのは悪いことじゃない。昔の偉人やトップアスリートの努力と比べると。

26条 反省ではなく、後悔する

成功する人間は同じ失敗をしない。なぜなら、反省なんていうレベルではなく、家

に帰っても、風呂にはいっても、夜寝る時も思い出すぐらい後悔しているから。

27条 人の付き合いはキャッチボール

キャッチボールでは相手の胸をめがけて真剣にボールを投げる。受ける側も相手の為に、グラブの真ん中で良い音をだして捕る。その音を聞き投げた方は気持ちがいい。だから、俺も相手に同じことをしてあげようと思う。これが真剣な付き合い方である。

相手が真剣に投げてるのに、グラブの先でなにげなく補給する、返すボールも山なりではいつか相手も同じようなキャッチボールしかなくなるか最後にはキャッチボールをあなたとはやらなくなる。

28条 言葉には魂がある

成功したいではなく、成功する！という断定的な言葉を使う。

なぜなら、自分自身のことについて第三者的な話し方しかできないのは自分の人生を生きていない証拠である。

29条 地を這うカッコよさ

本当のカッコよさは泥水をすすりながらも、地べたを這いつくばってでも諦めず前進することである。

30条 夢と誠

人間は、夢で前に進み、誠の心で人生を意味あるものにする。

31条 具体的、徹底、継続

強い会社、仕事ができる人間というのは、この3つの能力がある会社であり、人間です。知識や知恵は買うことができるが、この3つは自分たち自身でやるしかない。

最後に

まこと屋の屋号の由来

まこと屋は、創業者の笠井政志が好きな幕末の薩摩藩の西郷隆盛の「人を相手にせず、天を相手にせよ。天を相手にし、己を尽くし、人を咎めず、我が誠の足らざるを尋ぬべし」という言葉からきています。

もう一つは笠井が高校の卒業文集の寄せ書きに「誠の心」と書いていたことから、18歳の時の考え方が10年経っても変わらないということは、今後も変わらないだろうと思ったことも最後に背中を押した理由です。

親が子供の名前に願いを託すように、まこと屋の屋号も自他共に誠実であることという願いをこめられています。

まこと屋に最も相応しい人間は、自分に対して、自分が決めたことに対して誠実である人間です。

企業は人がすべてです。もし、まこと屋の社員、スタッフがこの考え方で人生を生

き、仕事に取り組めば必ず会社は成長し続け、まこと屋に関わるすべての人間が幸せになれることを信じています。